

## 夏の草地管理

牧草地は1度造成されると、これを5年も6年も長い間有効に利用するのでなければ、切角多くの資金を投じて造り上げた意義が失われるので、造成後の維持管理には一層努力が払われなければなりません。特に西南暖地における夏の草地は「夏枯れ」ということがあって、肥培管理、利用管理に注意せねば秋になって回復が遅れるか、あるいは修復不能になることがあります。

元来牧草は冷涼な気温を好むので、夏の暑い時期には刈取後の再生が遅れるか、ほとんど停止状態になることがあるので、でき得れば灌水設備を行なって土壌中の水分を保持してやり、また庇陰樹（潤葉樹）によって少しでも多くの日蔭を作って生長を促進することが必要です。

刈取りは6月下旬から7月上旬までで打ち切っ

て、夏の期間は休ませることです。この場合の刈取りは10 cm以上の高刈りにし、地肌を直射日光に晒さないようにします。低刈りすると地肌が現われて、水分の蒸発を促進することになり夏枯れをひどくすることになります。

放牧においても同様休牧するか早目早目に転牧することです。これと平行して、合理的な施肥を刈取毎に十分行なって、夏期の牧草のために不足を来すことのないよう注意することです。

また牧草地には夏期刈取りを中止した場合雑草がはびこることがありますから、これらを十分除去して秋になって牧草の生育に支障のないようにしてください。